

基 調 講 演

テーマ：繰り返す土砂災害～過去から学び、将来にそなえる
時間防災学のスズメ～

講 師：山口大学大学院創成科学研究科 教授 鈴木素之



略 歴

1998年3月 信州大学大学院工学系研究科博士後期課程修了
1998年4月 山口大学助手
2007年4月 山口大学助教
2008年6月 西オーストラリア大学上級訪問研究員
2009年4月 山口大学准教授
2016年4月 山口大学教授
現在に至る

研究活動・著書他

時間学の構築 I, 曾根好徳, 寒川 旭, 金折裕司, 鈴木素之, 山本晴彦, 今林隆史, 今井信雄, 立花幸司, 恒星社厚生閣, 2015年3月. (執筆ページ: pp. 87-123)
楮原京子, 鈴木素之, 松木宏彰, 阪口和之, 稲垣秀輝, 小笠原洋, 松原輝明, 2014年広島土石流災害発生2溪流沖積錐を形成する土石流堆積物の編年, 自然災害科学, 第34巻, 第4号, pp. 295-308, 2016年3月.
鈴木素之, 大石博之, 矢野健二, 阪口和之, 松木宏彰, 西山浩司, 平成29年九州北部豪雨被災エリアの土砂災害発生歴と三郡変成帯の土石流発生頻度, 地盤工学会誌, Vol. 66, No. 8, pp. 6-9, 2018年8月.
阪口和之, 鈴木素之, 楮原京子, 松木宏彰, 金折裕司, 櫻井正明, 片岡 知, 山口県防府市石原地区における土石流の発生頻度とその堆積物特性, 地盤工学ジャーナル, Vol. 13, No. 3, pp. 237-247, 2018年9月.

講演概要等

地盤工学の視点から土砂災害と洪水の発生履歴に関する研究を行っています。豪雨災害が毎年のように発生していますが、災害の歴史を調べると、同じ場所や近いところで、過去に土石流や洪水が何度も起こっていることが分かってきました。その土地の成り立ちや災害の発生頻度・規模を知ることが防災上重要との思いに至り、 $10^2 \sim 10^3$ 年の長時間スケールで災害を考え、防災に取り組む「時間防災学」を提唱して、研究を進めています。研究では、平成21年7月防府市、平成26年8月広島市などで発生した土砂災害を対象に、過去の崩壊や土石流の痕跡を探し、それらの発生年代や影響範囲を突き止める試みを行っています。また、地域に残る歴史資料をもとに災害の記録をまとめています。この研究は、日本史、考古学、社会学などの知見が必要なので、文系の研究者と協力しながら進めています。本講演では、その研究成果の一端をご紹介します。